



## えがおいっぱい 학교をめざして



一宮町立一宮小学校長 ながの 永野 まさと 真仁

### 1 はじめに

一宮町は、房総半島の外洋九十九里浜最南端に位置し、人口は約1万2000人。主な産業は農業のほか古くから地曳網漁が行われ、観光資源である美しい海を中心に別荘地としても発展してきた。また、本町の釣ヶ崎海岸は、東京2020オリンピックサーフィン競技会場に選ばれ、訪れるサーファーや移住者の数が増えている。駅舎のリニューアル、海岸施設の整備も進み、サーフィンの聖地としてさらなる発展に町民の期待も膨らんでいる。

本校は、町の中心部、国道128号線沿いにあり、児童数507名、職員数52名で近隣市町村の中では比較的大きな学校である。

昨年度、校長として着任する前にも8年間お世話になっていたことがあり、16年ぶりの本校の子供たちは、当時と変わらぬ元気な笑顔で迎えてくれた。また、多くの教え子がすっかり立派になり保護者となっていた。

### 2 意識改革

着任にあたり、どこで耳にしたのか余計な先入観をもったまま、不安いっばいで勤務初日を迎えた職員の存在が気になった。これでは、モチベーションも何もあったものではない。以前からいる職員も含めて、意欲に満ち溢れ子供たちとの新たな出会いに期待し、新年度のスタートを切ってもらいたい。

そこで、学校を創る第一歩は職員の意識改革であると考え、着任にあたって次のように話した。

そもそも今の時代に何もない楽な学校なんてあるのだろうか。「大変だ！大変だ！」と貧乏自慢をしても何も始まらない。我々はプロ集団である。実際のところ問題とされる点については大騒ぎするようなことではない。子供たちもまた以前と何ら変わらない素直で可愛い子供たちである。

それは、一宮小学校に勤務する職員としての誇りをもち、全職員体制で一宮の地で暮らす子供たちの豊かな学びを保障しようという決意表明である。

### 3 生徒指導の取組

生徒指導を重視し、笑顔で明るいあいさつの徹底を目指してきた。ともすると見せかけだけの薄っぺらなものになりかねない。そこで毎朝、校長、職員、生活委員会児童、代表委員会児童が校門や昇降口、街頭に立ち、子供たちには全職員体制で教員の本気度を示してきた。また、お手本となる児童を相互に選出し、放送で紹介するなど積極的に称賛する場面を設定してきた。

体育主任は、小中体連主催の各種大会に向けての活動目標に、「競技で1番、応援で1番、マナーでも1番！」を掲げて練習に励んだ。成績もさることながら、応援席での態度、マナーは立派であり、他校の先生からは、お褒めの言葉を数多くいただいた。この機会を捉え、認め、励まし、ほめる姿勢で臨み、さらなる成長を促した。

また、全校朝会等の各種集会では、毎回プ

レゼン資料を作成しICT機器を積極的に活用してきた。Society5.0の動画視聴であったり、先輩の活躍ぶりを紹介したり、アニメの名言を紹介したりするなど、インパクトがあり身近で印象に残るような話の工夫をしてきた。本年度は集会の実施が困難になったため、校内放送での話を中心となったが、給食時の放送にも登場し読み聞かせ等を行っている。

#### 4 若手育成の取組

しっかりと足元を固めるために職員の力量を高める取組にも力を注いでいる。

本校は若手職員が多く、少々年齢構成に偏りが見られる。そのことで学校に活気が生まれ、何事においても意欲的であり、フットワークが軽いことも大きなメリットと捉えている。個々の特性を生かしつつ、さらなる指導力が加われば千人力である。

昨年度から校内研修とは別に教務主任を中心に相互授業参観を主とした自主研修に取り組んでいる。特に本年度は、外部の研修講座がことごとく中止となる中、県総合教育センター勤務の経験を生かした校長・教頭による研修を企画するなど、チームとしての研修に力を入れている。今必要とする情報や知識、スキル、方策といったものを職員の側からのリクエストを受け、管理職やベテラン層が講師を務めたり、資料を収集し紹介したり、タイムリーでポイントを絞った研修として実施している。

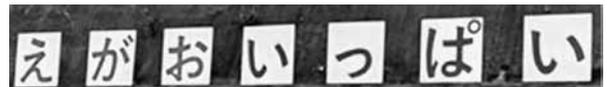
夏季休業中には、職員からのリクエストに応じてワンポイント絵画指導（花の描き方等）と、児童の意欲化を図る教材開発（総合「駅弁プロデュース」、国語「漢字ビンゴ」）と題して校長の講義と演習を実施した。早速、家庭学習において漢字練習に意欲的に取り組む工夫として導入するなど、実践に結びついて

いるとの報告があった。



#### 5 笑顔と和

校庭には本校のキャッチフレーズ「えがおいっばい」の大看板がある。昨年度、職員により手作りし、高台に人力で引き揚げて設置したものである。シンボルである看板の裏面には「教師の和が子供の笑顔を作り出す！」との思いを込めて全職員で寄せ書きをし、いつも意識できるようにした。



運動会には、私が体育主任であった頃に始めたことであるが、校長がデザインしたお揃いのポロシャツを着て臨んだ。



また、モラルアップ委員会ダンス部会・釣り部会なるものを立ち上げ、動画視聴による「6年生を送る会」でのサプライズパフォーマンスに向けてダンスの練習をしたり、休日は近くの川や海に出かけて釣りを楽しんだり、遊び心も忘れない。

#### 6 おわりに

本校に勤務していることに誇りをもてない職員には、子供たちに一宮小学校の児童としての誇りをもたせることは決してできないだろう。今後ともチーム一宮として和を重んじ、子供と職員が笑顔で一緒に頑張れる学校をめざしたい。



## 教頭として心掛けていることと「地域連携アクティブスクール」とは

県立船橋古和釜高等学校教頭 みずしま 水島 しんいちろう 真一郎



### 1 はじめに

本稿のタイトルは「私の教師道～学校を支える～」である。タイトルにあるとおり、「教頭として学校を支えるための努力」についてと県教育委員会から「地域連携アクティブスクール」に指定され6年目を迎える本校の特色や現状について記す。

### 2 教頭として心掛けていること

私は現職に就く前は、県内公立高等学校3校で23年間教諭として勤務した後、葛南教育事務所指導室指導主事として3年間、県総合教育センター研修企画部研究指導主事として2年間勤務する機会をいただいた。

この行政職での5年間は、今の管理職としての私にとってはかけがえのないものとなっている。どちらの職場でも他校種の方々の勤務となり、俗にいう「高校籍」はどちらかといえば少数派である。その中で、他校種からの先生方の児童生徒観や指導観、地域との連携、校内研修体制、管理職の在り方等については非常に多くを学ばせていただき、現職においてはそれらの実践に努めている。以下にその内容について記すことで、「教頭として学校を支えるために何をどのように努力しているか」についての私の実践記としたい。

#### 「教師は子供たちの手本であれ」

葛南教育事務所に勤務していた当時の所長の言葉である。不祥事根絶、学び続ける教員、ベテラン教員から若手教員への教育技術の継

承、地域との関わり等、学校現場において喫緊の課題であるあらゆる場面で見事に当てはまる言葉である。

当たり前のように聞こえる言葉であるが、「管理職は教職員の手本であれ」と置き換えると、その責任感や使命感に重みが増してくる。この言葉を自分に言い聞かせているうちは、管理職として十分に振る舞えていないのであらうと感じている。

また、「手本」がどのようなものであるかについて、私自身が明確なイメージや解答を持っていなければ「手本」たりえない。このことは先生方が「子供たちの手本」となるときも同様である。自らの個性を失うことなく、持続可能な姿としての「手本」を追求すると、人としての在り方にまで行きつく。教職員としての資質能力の向上は小手先の技術だけではないことを思い知らされている。

#### 「人は嫌味では育たない」

これも葛南教育事務所に勤務していた当時の先輩からいただいた言葉である。学校運営や人材育成において、管理職として先生方とのコミュニケーションの在り方について教えていただいた。

私は教職員の人材育成に強く関わりたいという思いから管理職を目指した。教職員の成長には、千葉県・千葉市教員等育成指標に基づく千葉県教職員研修体系による県主催の研修及び研修履歴システム「Asttra」の活用等、様々な取組を効果的かつ計画的に活用してい

くことは不可欠である。同時に、OJTや校内研修体制の充実により、業務を遂行する中で具体的な指導力を向上させていく取組も欠かせない。

校内での取組については、校長のリーダーシップの下、組織的な運営が必要である。また、先生方が切磋琢磨し合ったり、ベテラン教員から若手教員が学んだり、校内の課題に対して主体的に研修したりすることができる雰囲気づくりも重要である。管理職の発言は職場の雰囲気に影響する。管理職自らが常にポジティブで、先生方に対し尊敬の念を抱き、思いやりに満ちた声かけを心掛けることは、先生方が前向きに、協力し合いながら業務を行い、自らを高めていくことにつながると考える。「嫌味」からはそのような雰囲気を作ることはできない。

「Think CIVILITY『礼儀正しさ』こそ最強の生存戦略である」は管理職としての職場の雰囲気づくりの重要性やその方法論について、データに基づいて書かれている。これからの実践に向けて大いに参考にしている。

### 「拙速は巧遅に勝る」

県総合教育センターに勤務していた当時の先輩からいただいた言葉である。事務処理等に係る業務についての基本的な姿勢を教えていただいた。

「拙速（せつそく）」とはつたなくても速いことであり、「巧遅（こうち）」とはたくみでも遅いことである。つまり、完璧でなくても「仕事が速い」にこしたことはないという意味である。

もちろん「巧速」が理想ではあるし、速ければ粗雑・ずさんでも構わないということではなく、「拙速」と「巧遅」の二者択一の判断を迫られるのであれば、躊躇なく「拙速」を選ぶ。教頭の業務は文書による報告等が非

常に多く、それらの業務には期限がある。できるだけ早く取り掛かり、仕事に追われるのではなく、仕事を追いかけるようにしたいものである。

また、「拙速」ではないが、校長からの指示への対応についても「速さ」を心掛けている。「今日中」との指示の場合は1～2時間以内、「2～3日中」は今日中、「1週間以内」は2～3日中とし、時間がかかるものは進捗を報告する。校長が判断等をする時間を十分に確保するためには、教頭は素早さが求められていると感じている。

### 3「地域連携アクティブスクール」とは

中学生や保護者の方に説明するときは、「中学校時代に十分力を発揮できなかったが、高校では頑張ろうという生徒を応援する学校」としている。本校のパンフレットには「目指せ！高校デビュー」とある。

中学校時代のみならず小学校時代から学校生活に馴染めなかったり、それぞれの学年等で身に付けるべき学習内容が定着されないまま進級・進学したりしてきた生徒たちが、その学習内容についての「学び直し」を通して、「できた」「分かった」という体験を積み重ね、充実感を味わったり、自己肯定感を得たりすることにより、主体的な学校生活を送ることを目指している。また、卒業後には「自立した社会人」として自己実現できるよう「実践的キャリア教育」を推進している。具体的な教育内容等については、是非とも御来校いただき、生徒たちの活動の様子を御覧いただきたい。

#### 【参考文献】

Christine Porath「Think CIVILITY『礼儀正しさ』こそ最強の生存戦略である」2019年 東洋経済新報社



## 感謝の気持ちを忘れずに



成田市立成田小学校主幹教諭 すなもり 砂盛 ゆうこ 裕子

### 1 はじめに

平成28年度に成田小学校に赴任し、昨年度より同校で主幹教諭として校務を行っている。新しい職で自分が何をしなければならず、何ができるのか不安が多く、それは今も続くが、毎日の出来事に一つ一つ心を込めて対応しようと努めながら今に至っている。

### 2 子供たちとともに

私は、これまでの勤務校で様々な学年の担任をさせていただいた。その中で感じたことは、出会ったどの子にもいいところがあり、それぞれ「こうなりたい」と目標をもち生活しているということだ。しかしながら学級担任一人が、それぞれの子供の気持ちにタイムリーに寄り添うことはとても大変なことであり、子供たちを多くの人で支援することは重要であると考え。そのため担任とは違った角度から声をかけたり、共に考えたりすることを大切にしている。また、多くの時間を担任として費やしてきた自分がその経験を少しでも活かし、子供と関わることを重視しながら担任とも情報を共有するよう日々努めている。学校において全ての活動は、子供たちの思いや実態を無視しては成り立たない。子供たちと先生方、子供たちと学校をつなぐ手伝いができることは、とてもうれしいことだ。

### 3 先生方とともに

新学習指導要領の実施、保護者への対応、地域との繋がりなど学校をとりまく環境は大きく変化している。小学校において学級担任は、クラスの子供たちと関わる多岐にわたる

業務を自分自身で考え、対応しながら毎日を過ごさなくてはならない。その中、とりわけ日々の授業は子供たちの心を動かし、人間関係を深め、子供たちの知的欲求を高める絶好の機会である。経験を積んでいる先生方でさえ、授業をどのように組み立て、どう教えていけばよいのか迷うことは、多くあるわけだから若い先生方ならばなおさらだ。私は、「子供と共に作り上げる授業を大切にする教師でありたい」という私自身の初心を忘れず実践することに努めている。若年層の先生と年に数回それぞれ放課後30分程時間を作り、一緒に授業構成や発問について考える。また「この単元」の「この時間」をどう展開したらよいか授業のイメージがわからないという疑問に応えるために、「若成研（わかなりけん）」と称して月に数回微力ながら自分が子供たちの前で授業をして参観してもらい、その振り返りを若い先生方と共有し考えることで授業づくりの一助となればと思っている。

### 4 ありがとうの気持ちを忘れずに

振り返ると、今私が元気に仕事をしているのはたくさんの子供たちや先生方の温かい気持ちや支援に支えられてのことである。思いを発信することにたくさんの勇気が必要だった自分を振り返っても、周りの人の声掛けや思いやりが少しずつ私に自信と勇気をくれたことは間違いない。主幹教諭として私は、子供たちや先生方の思いが円滑に伝わり互いに尊重できるような環境作り、思いを伝えることの楽しさが共有できる職場作りをめざし、感謝の気持ちを忘れずに努力していきたい。



## 初任者研修で学んだこと ～学び続ける教員に～

袖ヶ浦市立昭和小学校教諭 あおき みゆう  
青木 美侑



昨年度の初任者研修では、教科指導や学級経営、児童理解など様々なことについて学ぶことができた。その中で、私が特に大切にしていることが2つある。

1つ目は、授業が基盤であるということ。子供たちが学校で過ごす時間の中で、授業時間が最も長い。授業準備に力を入れ、わかる・できる授業を行うこと、子供と教師・子供同士の対話を大切にして関係を築くこと、ノートのまとめ方や授業中の規律を繰り返し指導することなどが、全て学級経営に繋がると学んだ。上手くいかない授業も多く、反省する日々だが、授業を通して、学び合い、認め合い、高め合える集団を目指していきたい。

2つ目は、学び続けるということ。初任者研修には、現場で活躍する先輩方が講師として多く来てくださった。校内にも多くの先輩方がいて私を支えてくれている。一緒に切磋琢磨する仲間もいる。恵まれた環境に感謝し、先生方の色々な経験や実践から多くを学び、自分なりの方法を築いていきたい。講師の時、「子供は担任を選べない。そして濁りのない目で、大人をよく見ている」と言われた。子供たちに良くも悪くも影響を与える立場であるという自覚と責任を持ち、胸を張って子供たちの前に立てるよう、学び続けていきたい。

昨年度は、突然の休校を経験し、正直後悔が残った。日々を全力で過ごし、いつまでも学ぶ姿勢を忘れず、そして目標とする先生に近づけるよう、精進していきたい。



## MINDを伝える

野田市立第一中学校教諭 うえまつ しゅんや  
植松 隼也



昨年度、初任者研修において学級経営や学習指導、社会人としてのマナー等、様々なことを学ぶことができた。中でも、講師の先生から頂いた「生徒は家庭の大切な宝物」という言葉が特に印象に残っている。生徒を心身ともに成長させ、より輝ける存在にすることが私たちの責務であると理解することができた。1学年の学級担任となった今年度は、さらにその言葉の重みを実感している。

指導の際に心がけていることがある。それは“MIND”を伝えることである。心から相手の成長を願い、支援したいと思う気持ち、それがMINDだと考える。授業をするときは、理解を深めてほしいと強く思い教壇に立つ。褒めるときは心の底から共に喜び、諭すときは今後どうなってもらいたいかを素直に伝える。間違っていたときは真摯に謝り、残念なときはおもいっきり悔しがる。取り繕った言葉ではなく、本気で生徒の成長を願って接することで言葉がけが変わった。忙しさに気を取られ苦しい時期もあったが、先輩の先生からこの助言をいただき、生徒と充実した学校生活を過ごしている。

初任者という肩書がなくなった2年目。常に学ぶ姿勢を忘れてはいけない。これからも生徒たち、そして私自身も日々成長していけるような、宝物のような時間を子どもたちと創っていきたい。



## 段階的な「読むこと」、「書くこと」の活動 を取り入れた小学校外国語科の実践



鴨川市立鴨川小学校教諭 石井 恭平

### 1 はじめに

小学校の外国語科は、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」、「書くこと」の五つの領域の言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することが目標となった。これまでの音声中心の外国語活動に、いかに「読むこと」、「書くこと」を取り入れていくか、その指導方法の具現化が必要とされている。ここでは、私が行った「読むこと」、「書くこと」の段階的な活動の授業実践について述べていく。

### 2 授業実践

#### (1) 「聞くこと」、「話すこと」の活動の充実

外国語の学習でまず重要なのが音声である。そこで、「聞くこと、話すこと」の活動を表1のように四つのステップで構成し、その充実を図った。まず、多様なアクティビティを通して、音を注意深く、かつ楽しく何度も聞いたり、声に出したりして音声に慣れ親しむ。その後、インフォメーションギャップを取り入れたインタビュー活動等を行い表現の使い方に慣れる。そして、最後に、自己表現活動の場を設定し、自分のことを伝えたり、友だちの考えを聞いたりしていく。

表1 「聞くこと」、「話すこと」の活動ステップ

ステップ	活動例	内容
①音と出会う	音クイズ	その単語の発音を聞き、それが何か想像する。
②音声に慣れ親しむ	チャンツ	リズムに合わせて発音練習する。
	伝言ゲーム	キーワードを後ろから前へ伝えていく。
	かるた ビンゴ	英語を聞いてカードを取ったり、カードを並べたりする。 What subject do you like?等と児童がたずねる。ALT等がI like English.等と答え、表現を発音しながらビンゴを行う。他にも、時間割ビンゴ、場所ビンゴ等がある。
③使ってみる	〇〇を探せ	インフォメーションギャップを用いたアクティビティ。Do you have?等と友だちに聞きながら、センテンスを使用する。
④自己表現活動	人気教科ベスト3	友だちに好きな教科を聞いたり、自分の好きな教科を伝えたりしながら、クラスで人気な教科のランキングを作る。

#### (2)段階的な「読むこと」、「書くこと」の活動

新しい表現の音声に十分慣れ親しんだ後に、「読むこと」、「書くこと」の活動に入っていく。ここでは、「読むこと」、「書くこと」の活動を「①文字に意識を向ける段階」→「②語頭の文字を書く段階」→「③自分のことを書く段階」三つの段階に分け、その中で様々なアクティビティを展開した。

##### ①文字に意識を向ける段階

この段階では、かるたや間違い探し、迷路といったクイズ形式の活動の中で、音を聞いて単語を選んだり、イラストをヒントに単語を選んだりすることで文字に意識を向けていく。

資料1 文字に意識を向ける段階の活動例

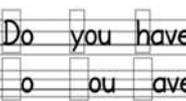
①文字に意識を向ける段階						
音を聞いて文字を選んだり、イラストをヒントに文字を選んだりすることで、文字に意識を向けていく。						
活動例						
「この文字は何だ」				少しずつ姿を現す文字を見て、それが何かを考える。		
「絵&文字かるた」				絵札と文字札を使って神経衰弱をしながら文字に慣れていく。		
「正解はどれだ」						
①	②	③	④	⑤	⑥	音声を聞いて、それぞれの選択肢の中から正しい文字を見つける。
Where	did	be	you	this	summer	
Do	music	do	go	play	week	
Yes	subject	you	she	soft	day	

選択肢の中から選んだり、他の語と見比べてりすることで、児童は文字数や形状、音と文字の関連に注目するようになった。そして、書き方はわからなくても、何と読むのか、何を意味しているのかがわかるようになっていった。

##### ②語頭の文字を書く段階

表現の綴りに見慣れてきたところで、音声を聞いて語頭の文字を選んだり、書いたりする活動に移る。

資料2 語頭の文字を書く段階の活動例

②語頭の文字を書く段階	
語頭の音と文字だけに注目させ、音を聞いて文字を選んだり、なぞったり、書いたりしながら、その音と文字に慣れていく。	
活動例	
「その音はどの文字？」	 音声を入れて、選択肢の中から正しい文字を選ぶ。
「1文字目を書いてみよう」	 お手本を見ながら語頭の文字を書き写す。
「どっちが正しい」	①      ②      ③      ④      ⑤ What   subject   po   you   like? Chat   subject   do   sou   mike? 音声を入れて、上下2つの選択肢の中から正しい方を選ぶ。

例えば、「Japanese / Kapaneseでは、どちらが正しいか。」等とクイズ形式にし、Jの音に注目させ、その文字を書かせていった。資料2のような活動を通して、児童は、「ドウの音だから、Dだ。」等と、文字とその音を一致させることができるようになった。見本を見て書いたり、正しい方を選んだりしながら書くことを繰り返し行うことで、文字認識とそれが持つ音の認識が高まっていった。

③自分のことを書く段階

少しずつ文字や綴りに慣れきた所で、最後に自分のことを書く段階に入る。自分の好きなことや、自分の経験などを題材にすることで、児童に「書きたい」という思いを抱かせる。

資料3 自分のことを書く段階の活動例

私の時間割		
過程	題材	英文例
その1	好きな教科を書こう	I like Japanese.
その2	自分の時間割を書こう	I have English on Monday.
その3	好きな教科を質問しよう	What subject do you like?
ゴール	中学生に手紙を書こう	I like English. I have English on Monday. What subject do you like?

夏の思い出		
過程	題材	英文例
その1	行った場所を書こう	I went to the sea.
その2	楽しんだことを書こう	I enjoyed swimming.
その3	一言感想を書こう	It was fun.
ゴール	3行日記を書こう	I went to the sea. I enjoyed swimming. It was fun.

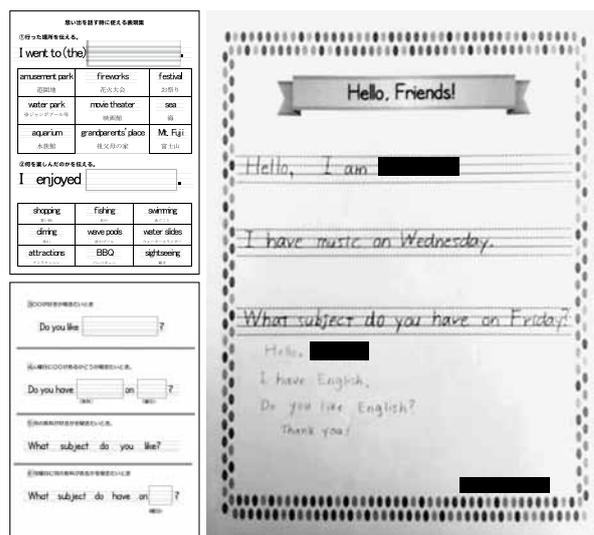
時間割の単元では、最後に中学生に手紙を書く、夏の思い出では、最後に3行日記を書くという目標を設定し、そこに向けて、英文を一つずつ練習していった。英文を書く際は、

ワークシート(資料4)や黒板に参考にする表現を予め明記しておき、お手本を見ながら書けるようにした。また、最初は□の中自分に合う単語を書き入れることから行い、それから文章全体を書くようにステップを踏んだ。

時間割の単元では、児童は、Hello. I'm (名前). I like home economics. What subject do you like?等と、自己紹介や質問を手紙の中に書くことができた。夏の思い出の単元では、I went to the sea. I enjoyed swimming. It was fun.等と、場所、楽しんだ事、一言感想を書くことができた。

目標を明確にしたり、ステップを踏んで書いたりしたことで、意欲が高まり、児童は楽しみながら書く活動に取り組むことができた。

資料4 書く活動のワークシート



3 おわりに

初めての外国語の読み書きも、段階的に行うことで、児童にとって負担なく、意欲的に取り組めるものとなった。児童側にとって、まだまだ戸惑いのある外国語だが、「書いてみたい、読んでみたい」という児童の意欲を大切に、楽しさを追求していけば難しくても主体的に学ぼうとする姿勢が育つと考えている。

楽しく学び、外国語を使って多くの人々と関わっていける児童を育成するためにも、今後も自己研鑽を重ねていく所存である。



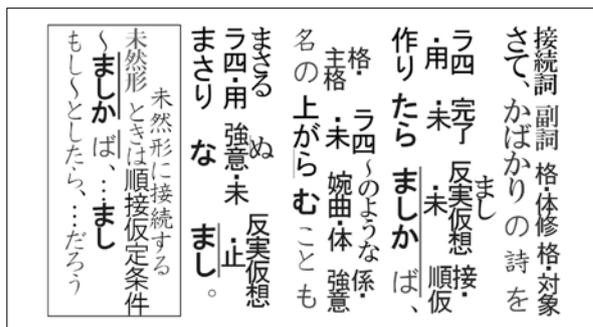
# 新型コロナウイルス対策の休校下での学習指導



ひだ ひろゆき  
肥田 博之  
県立幕張総合高等学校教諭

## 1 はじめに

令和2年度の新学年は新型コロナウイルス対策の休校から始まった。登校できない生徒の家庭学習を支援し、学習状況を管理するために学校現場では様々な取組が行われたが、私は次の2点を中心とした実践を行った。



## 2 YouTubeを活用した学習動画の配信

私は、ほぼすべての授業でパソコンとプロジェクターを教室に持ち込んで、プレゼンテーションソフト（以下「プレゼンソフト」）を使用して授業を行っている。その目的は次の3点である。

- わかりやすい授業を展開することで、知識の定着を促進すること。
- 板書の時間を減らして言語活動の時間を確保すること。
- 生徒の興味・関心を高めること。

古典では本文を、品詞分解や書き下し、現代語訳などを表示したり、歴史的背景を説明する資料を映写したりして授業を展開した。（【資料】参照）現代文では本文を表示して、要点を示したり、文脈の構成を図式化したものを示した。

そして以前から取り組んでみたかったのが、プレゼンソフトの動画作成機能を用いて授業用のスライドにナレーションをつけて学習動画を作成し、それをYouTubeにアップロードすることである。こうすれば生徒はスマートフォン等で動画を見て、欠席した授業内容の自習や、日々の復習に活用できる。



【資料】動画作成に用いたスライド

そこで、Web上の情報を参考にしながら、スライドから動画を作成する方法と、それをアップロードする手順を学んだ。そして3学年の古典Bの教材として、『方丈記』「ゆく河の流れ」と『大鏡』「三船の才」の動画を作成して、Web上に公開した。

この際、最も苦勞したのがナレーションの吹き込みである。当初は教室で説明しているように話して録音すればよいと考えた。しかし、いざマイクに向かって話すと言い間違えたり、噛んだりすることが連続して、何度も録り直しをした。録音した自分の声を聞くと「えー」という間投詞を多発し、滅茶苦茶な語順で説明をしていることが多く、とても発信できるレベルのものではない。普段、生徒を前にして、いかに適当に話しているかを痛

感じ、YouTuberの方々の話術のレベルの高さに恐れ入る限りであった。結局、何度もやり直して、60分程度の動画の作成に6時間程かかってしまった。

また、限定公開とはいえインターネットにアップロードする動画である。資料として示す画像などの著作権には注意した。調べたところ、写真や絵はもちろん、市販の問題集の解説なども無断で配信すると問題になるという。そこで、著作権フリーの画像・イラストのサイトを活用して、そこからデータをダウンロードして活用した。さらに『方丈記』のスライドに下鴨神社のホームページの画像を使いたいと考え、メールで問い合わせたところ、すぐに承諾する旨のご連絡をいただいた。

さて、完成した動画をYouTubeにアップロードした後、学習の手順について生徒に連絡した。この際に用いたのが、ベネッセコーポレーションの学習プラットフォーム・Classiのポートフォリオ機能である。生徒への伝達内容は次の通りである。

#### (1)学習動画のリンク

#### (2)『方丈記』『大鏡』の本文のワークシートのPDFデータ

#### (3)学習の手順

- ①辞書などを用いて、古文の品詞分解と現代語訳を行う。その際には添付したPDFデータをプリントアウトして使用する。
- ②動画を見て答え合わせを行う。動画の学習内容は定期考査の出題範囲とするので、繰り返し学習すること。
- ③『方丈記』と『大鏡』の発展学習として、調べ物のレポートを課す。(これについては次に説明する。)

Classiの告知後、その日のうちに40名程の生徒が視聴していた。視聴者数が次第に増えていくのを嬉しく感じた。

予告どおり『方丈記』と『大鏡』を定期考査の範囲として出題したところ、通常の授業を実施したときと遜色ない平均点をあげることができた。学校再開後のアンケート調査でも、「ナレーションが入っていて勉強がしやすかった」という感想を得られた。

### 3 Classiポートフォリオを用いた課題レポートの提出

『方丈記』と『大鏡』の発展学習としてClassiポートフォリオを活用したレポートの提出を課した。

#### (1)「無常観」についての意見文

教科書収録の『方丈記』「ゆく河の流れ」「養和の飢饉」「日野山の閑居」を読み、その内容を踏まえ、さらに現代の「無常」を感じる事象にも触れながら、「無常観」についての意見文を記述する。

#### (2)『大鏡』人物レポート

教科書収録の『大鏡』「菅原道真の左遷」「肝試し」を読み、菅原道真か藤原道長のいずれかを選んで、その人物像について『大鏡』の本文を引用しながら説明する。

両課題ともに字数は400～800字として、インターネット等を活用して調べたことも記述するように指示した。

提出された課題はA～Cの三段階で評価し、講評をできるだけ丁寧に記して返信した。提出された課題には、よく調べて書かれた力作が多く、有意義な学習活動が展開できた。

### 4 おわりに

新型コロナウイルス対策の休校は教育活動に大きな影響を与え、困難なことも多く発生したが、このような新しい取組に挑戦するきっかけともなった。今後も情報技術を活用した教育にチャレンジする所存である。